

## 学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成26年11月18日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

### 発 表 事 項

1. 平成 25 年度に係る業務の実績に関する評価結果について
2. 国際事業化研究センターコーディネータが、イノベーションコーディネータ賞を受賞
3. 本学学生が「液だれ防止つき自立おたま」で特許権を取得

### お 知 ら せ

1. 「おしゃべりな畑 人づくり・地域づくり」の開催
2. はやぶさ2打ち上げパブリックビューイング in 山形大学工学部

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成26年12月9日(火)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

## 全国国立大学法人の評価結果の分布

○平成25年度に係る業務の実績に関する評価

	業務運営の改善 及び効率化	財務内容の改善	自己点検・評価 及び情報提供	その他業務運営 (施設整備の整備・活用 等、安全管理、法令遵守)	平成24年度補正予算関係
特筆すべき進捗状況にある (評定5)	1法人 (1%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	1法人 (1%)	0法人 (0%)
順調に進んでいる (評定4)	84法人 (93%)	90法人 (100%)	90法人 (100%)	56法人 (62%)	3法人 (75%)
おおむね順調に進んでいる (評定3)	5法人 (6%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	18法人 (20%)	0法人 (0%)
やや遅れている (評定2)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	14法人 (16%)	1法人 (25%)
重大な改善事項がある (評定1)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	1法人 (1%)	0法人 (0%)

は、山形大学の評価結果

※平成24年度補正予算関係については、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学のみが中期計画を設定している。

## 山形大学の評価結果推移一覧表

	第1期中期目標期間								第2期中期目標期間			
	H16	H17	H18	H19	H16-19 【暫定評価】	H20	H21	第1期 【最終評価】	H22	H23	H24	H25
業務運営の改善及び効率化	3	4	4	3	4	3	5	4	4	4	4	4
財務内容の改善	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
自己点検・評価及び情報提供	3	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4
その他業務運営(施設整備・安全管理等)	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4

(評定)

5	中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある (国立大学法人評価委員会が特に認める場合)
4	中期計画の達成に向けて順調に進んでいる (すべてIVまたはIII)
3	中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる (IVまたはIIIの割合が9割以上)
2	中期計画の達成のためにはやや遅れている (IVまたはIIIの割合が9割未満)
1	中期計画の達成のためには重大な改善事項がある (国立大学法人評価委員会が特に認める場合)

注)

国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間における各年度終了時の評価に係る実施要領(平成22年6月28日国立大学法人評価委員会決定)から

IV: 中期計画を上回って実施している

III: 中期計画を十分に実施している

II: 中期計画を十分には実施していない

I: 中期計画を実施していない

# 国立大学法人山形大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域及び国際社会との連携並びに不断の自己改革の基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程教育を通じ、自律した一人の人間として力強く生き、他者を理解し、ともに社会を構成していく力を養うこと等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「学部（学士課程）教育を重視した人材養成」を遂行するため、学士課程教育全体の充実や学生支援の充実に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （機能強化に向けた取組状況）

機能強化のタスクフォースや大学改革戦略本部の設置に向けた検討を行ったほか、学部連携型教育組織の設置に向けた検討、グローバル化を見据えた教育組織の構築に向けた検討、年俸制の拡充に向けた検討等を行っている。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### （1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大規模地域住民コホートである山形全県ゲノムコホートを基盤に進めている分子疫学研究について重点的に推進するため、医学部先端分子疫学研究所を発展させ、「医学部メディカルサイエンス推進研究所」を設立している。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### （2）財務内容の改善に関する目標

（①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、  
③資産の運用管理の改善）

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 施設設備の防災機能強化を図るため、基幹設備整備計画に基づき、米沢団地のガス供給設備を大型貯蔵とし、備蓄対応できるよう整備した。これにより大口契約が可能となりランニングコストが削減（年間 600 万円）されている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 東北地区の 7 国立大学法人（弘前大学、岩手大学、東北大学、宮城教育大学、秋田大学、山形大学及び福島大学）において、「大規模災害等発生時における東北地区国立大学法人間の連携・協力に関する協定書」を締結し、被災大学において応急措置及び教育研究活動等の復旧・再開が困難な場合に、大学間の連携により迅速かつ的確な支援を行うための体制を整えたほか、山形大学生生活協同組合と災害時の相互協力に関する協定を締結して、防災体制の充実を図っている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- グローバリゼーションに対応できる人材や、東北地方の地域再生を担うリーダーを育成するために、人文学部・地域教育文化学部・理学部の 3 学部共同で、グローバル・スタディーズ、公共政策スタディーズ及び企業活動スタディーズの 3 コースを有する「実践教育プログラム」を開設し、ワークショップ、講演会、公開講座を開始している。
- アドバイザリーボードの設置(平成 24 年度)、教育ディレクターの基盤教育及び各学部への配置(平成 25 年度)により確立した体制に基づいてカリキュラム編成の点検・評価を行ったほか、平成 25 年 8 月に開催した第 2 回アドバイザリーボード会議においては、3つのポリシーをはじめ、学士課程教育全般について、委員から意見を聴取し、点検を行っており、また、各研究科で、学位論文審査基準の明確化を図っている。
- 「山形大学ナノメタルスクール」を背景にした「低温焼成型の銀・銅系ナノ微粒子の製造とその応用技術」が、独立行政法人科学技術振興機構（JST）から「プリンテッドエレクトロニクス用電極材料に関する特許群」の認定を受けており、大学は得意とする基礎技術に特化し、応用技術・出口戦略は参画企業それぞれの方針に委ね、役割分担を明確化することで、特許群の厚みを増し、国際競争力を持つ真に強い国内技術を構築することを目指している。
- スタートアップ・セミナーの学生用共通テキスト「なせば成る！」の改訂を受け、教員用マニュアル『なさねば成らぬ』の再改訂を行い、これまでの授業担当者の利用のみを想定した教員用マニュアルとしてだけでなく、学生が自学自習用にも活用できるような内容とし、『なせば成る！』による学修をより深めるためのガイドブックとして活用できるようにしている。
- 海外の学生に日本語を教えることを通して、グローバル力・コミュニケーション力を習得することを目的とした「日本語チューター派遣プログラム」により、ベトナム及びケニアの海外サテライトに、学生 34 人及び職員 3 人を派遣し、プログラム終了後は、報告書の作成及び報告会を実施している。

### **附属病院関係**

#### **(教育・研究面)**

- 学部在籍中から将来専攻する分野の教育を強化して行う医学部専修コースに、平成 25 年度は 5 名（外科 1 名、小児科 1 名、産婦人科 2 名、救急医学 1 名）が在籍し、そのうち同コースの外科、小児科を終了した 2 名が、附属病院での卒後臨床研修に進んでいる。

#### **(診療面)**

- 医学部がんセンターで実施しているキャンサートリートメントボードにおいて、山形大学に事務局を置く東北がんネットワークを活用し、東北地方の複数の病院と大学を結び、電子カルテ情報を共有しつつキャンサーボードを実施するためのテレビ会議

システムを導入したほか、がん患者の情報把握等のためのネットワーク強化を目的に、がん診療連携拠点病院の電子カルテの相互参照システムの導入とデータベース化を開始している。

**(運営面)**

- カルテチェックを年2回実施し、発見された問題点についてサブリスクマネージャー会議等において注意及び指導を行ったことにより、平成24年度と平成25年度比較において、十分にできていると判断される項目が、「アレルギー情報」の記載で20%、「研修医の医師記録・指示などへのカウンターサイン」については30%改善されている。

平成26年11月18日  
山形大学

## 国際事業化研究センターコーディネータが、「イノベーションコーディネータ賞」を受賞

独立行政法人科学技術振興機構（JST）による「平成26年度イノベーションコーディネータ表彰」において、山形大学国際事業化研究センターコーディネータの高橋政幸（たかはしまさゆき）が、「イノベーションコーディネータ賞」を受賞しました。（本表彰は、全国で計8名（6賞）のみが受賞）

年間180社以上の企業訪問を通じて、地域資源に付加価値を加えた製品開発に貢献した実績、並びにその基盤を支えるセミナー「最上夜学」や地域製造業機能強化のための「もがみイブニングサロン」の開設を主導した貢献が評価されました。

### ■高橋CDの業績と受賞理由

高橋コーディネータ（以下「高橋CD」という。）の業績の特長は、**年間180社以上の企業訪問を通じたマッチング等の件数の多さ**に加え、地域に新しい連携基盤となるシステムを多く構築している点があげられます。本学が2003年開設した「最上サテライト」の常駐コーディネータとして、「産学連携」による地域貢献に大きく寄与しており、具体的には、以下のような取り組みがこの度の評価に繋がったものと考えられます。

#### ①最上地域プラットフォーム協議会の立ち上げ

2007年に高橋CDが事務局として立ち上げた最上地域プラットフォーム協議会は、地域の産業振興を担う「行政・商工会議所・商工会・金融機関・試験研究機関」等が参加、**高橋CD自身が「スーパー御用聞き」として連携のハブとなり「顔の見える連携組織」を構築**している。

#### ②産学連携きっかけづくりセミナー「最上夜学」の開設

2004年、当時、山形県企業振興公社コーディネータであった高橋CDが中核の一人として、「最上夜学」を開設。本学等との産学連携の基盤づくりのサロンの機能を担っており、**現在まで65回開催、大学等研究者82名が話題提供を行い、参加者は2700名を越えている。**

なお、本夜学をきっかけに**20件を超える共同研究を創出**している。

#### ③地域製造業機能強化のための「もがみイブニングサロン」の立ち上げと運営

高橋CDが中心となり立ち上げた「もがみイブニングサロン」は山形県の製造業機能強化事業の一端を担っており、本学理工学研究科 野長瀬教授が行う新都心イブニングサロンなどの首都圏、南東北圏との、ものづくり企業の広域ネットワークを形成。これまで20回開催し、関東圏や他地域の先進的取り組みを行う企業を招いた事例紹介を通じて、受注の拡大や企業間連携など大きな成果をもたらしている。

このように高橋CDは、地域企業をくまなく回り、ニーズ・課題を拾い上げるとともに、連携機関との顔が見える人的ネットワークを整備して連携のプラットフォームを形成しています。寄せられた課題に対しては、このようなネットワークを活用し、川上から川下まで切れ目のないコーディネートを中心に、産学官金が持つ多様な機能・可能性を最大限に引き出しながら大学の「知」を社会に還元すべく日々活動しています。

### ■表彰式

平成26年11月11日（火）つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園2-20-3）にて「全国イノベーションコーディネータフォーラム2014」の中で行われました。

※独立行政法人科学技術振興（JST）「イノベーションコーディネータ表彰」の概要については、別紙参照

#### （お問合せ先）

山形大学国際事業化研究センター  
副センター長 小野浩幸・事務担当 齋藤祐輔  
TEL：0238-26-3480

# 独立行政法人科学技術振興機構(JST) 平成26年度イノベーションコーディネータ表彰概要(HPより抜粋)

URL <http://www.sanren-net.jp/ica2014/index.html>

## イノベーションコーディネータ表彰の趣旨

独立行政法人 科学技術振興機構(JST)は、平成21年度より産学官連携による研究開発及び企業化(注)をコーディネートする人材を表彰する「イノベーションコーディネータ表彰」を創設いたしました。

産学官連携における研究開発をコーディネートする人材(以下コーディネータという)は、イノベーション創出のため、研究者の持つシーズを発掘し適切な競争資金獲得へ導く、また大学等研究機関のシーズと企業のニーズとのマッチングを行う、研究開発成果を適切に企業化に導く、更には知財関係の管理や契約、ベンチャー創設の支援など多岐に亘っています。所属する機関等により、コーディネータの活動内容に差はありますが、コーディネータ抜きでは、産学官連携による共同研究の推進においては大学の活性化、地域における産業の活性化は進まないといっても過言ではありません。

しかしながら、その活動内容について一般社会の認知度は十分であるといえず、またその活動を褒賞する場もほとんど無いのが現状です。

そこで、イノベーションコーディネータ表彰を創設し、全国各地のコーディネータの活動・実績に対して、その成果を客観的視点から表彰することにより、コーディネータのモチベーションを高めると共に、コーディネート活動の重要性を社会にアピールし、さらにはコーディネータのより一層のステータス向上、優秀なコーディネータの育成・確保を目指します。

注)企業化:特許の実施、ライセンス、ベンチャー起業等により、当該技術を利用した個別商品・サービス提供に向けた企業活動を展開すること

[このページのトップへ](#)

## 対象

我が国においてコーディネート活動を主としている個人とします。  
ただし職名は「コーディネータ」に限らないこととします。また国籍は問いません。  
具体的には以下のような活動を行っている方を対象とします。

1. 大学等の技術シーズ発掘及び企業ニーズとのマッチング
2. 産学共同研究に当たっての適切な外部資金の取得支援
3. 知財マネジメント、技術移転支援(特許戦略、ライセンス等)
4. 企業化支援(製品・商品化、市場導入、起業(ベンチャー含む)等)
5. 後継事業等への橋渡し(研究や支援制度の発展的な展開等)
6. 産学官連携に関する地域内、組織内の連携推進体制等の整備
7. 上記に関連するコーディネート活動の普及、啓発
8. 上記に関連するコーディネート活動を行う人材の育成
9. その他産学官連携等に関連する活動

注1)候補者が自ら実施した活動・取組を具体的にご紹介いただいた方の方を対象とします。

注2)コーディネート活動には、産学連携や学学連携等を含むものとします。

注3)平成21~25年度にイノベーションコーディネータ表彰を受賞された方は、対象外とさせていただきます。ただし、平成21年度の奨励賞および平成22、23年度の若手賞を受賞された方は、今年度の若手賞以外の賞の対象とします。

## 表彰の内容

賞名	表彰数	表彰内容	表彰対象者
イノベーションコーディネータ大賞・文部科学大臣賞	1名	大学等の持つ有効な技術シーズを発掘し、商品化実現に向け産と学の効果的な橋渡しを行うなど、科学技術に関わるイノベーションの創出において、総合的に極めて優れたコーディネート活動を行った方。	
イノベーションコーディネータ賞・科学技術振興機構理事長賞	1名	シーズ発掘・マッチング等の産学官連携活動や企業化支援等の活動に優れた成果を上げており、かつコーディネート活動の仕組みづくり・人材育成等にも優れた成果を上げた方。	応募時点において我が国でコーディネータとして活動しており、我が国の大学、自治体、団体、企業等の機関に所属または所属経験があり、今後も継続して活動を予定している個人とします。
イノベーションコーディネータ賞	複数名	産学官連携によるコーディネート活動において優れた成果を上げた方。	
イノベーションコーディネータ賞・特別賞	複数名	産学官連携によるコーディネート活動において優れた成果を上げた女性のコーディネータ。	
イノベーションコーディネータ賞・若手賞	複数名	優れたコーディネート活動を行っており、今後の活躍が大きいと期待される45歳未満の若手のコーディネータ。	
功労者賞	複数名	コーディネート活動・コーディネータ制度の整備・発展に関する活動において、特に優れた功績を上げた方。	我が国でコーディネータとして、大学、自治体、団体、企業等の機関に所属または所属経験がある個人とします。なお、本賞では現役であることを問いません。ただし、故人は対象になりません。

\*ただし該当がない場合は受賞者なしの場合もあります。

## イノベーションコーディネータ賞

### イノベーションコーディネータ賞 高橋 政幸氏

山形大学 国際事業化研究センター 最上サテライト コーディネータ

#### ●受賞理由

年間180社以上の企業訪問を通じて、地域資源に付加価値を加えた製品開発に貢献した実績、並びにその基盤を支えるセミナー「最上夜学」や地域製造業機能強化のための「もがみイノベーションサロン」の開設を主導した貢献を評価する。



### 《平成26年度の受賞者数》

- ・イノベーションコーディネータ大賞・文部科学大臣賞: 1名
- ・イノベーションコーディネータ賞・科学技術振興機構理事長賞: 1名
- ・イノベーションコーディネータ賞: 1名(高橋 政幸)
- ・イノベーションコーディネータ賞・特別賞: 1名
- ・イノベーションコーディネータ賞・若手賞: 1名
- ・功労者賞: 3名

計 8名



平成26年11月18日  
山形大学

## 本学学生が「液だれ防止つき自立おたま」で特許権を取得

工学部システム創成工学科2年 前田悠梨香（まえだゆりか）さんが、独立行政法人「工業所有権情報・研修館」主催の平成25年度パテントコンテストにより、特許出願支援対象として選ばれた「液だれ防止つき自立おたま」の発明で特許権を取得しました。

### ◆パテントコンテストとは

文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館が主催し、高校生、高等専門学校生及び大学生等の知的財産マインドを育てるために、自ら考え出した発明を公募し、優秀な作品を選考・表彰するというもの。

また、知的財産権制度の理解促進も目的としており、入賞の特典として、実際に特許庁に出願し、特許権の取得までの手続きを実体験できます。

平成25年度のパテントコンテスト大学部門には97件の応募があり、前田さんの発明を含む11件が今年1月に特許出願支援対象として選ばれました。（平成26年1月27日開催の「山形大学工学部記者懇談会」で発表）

### ◆発明内容

一人暮らしで料理をするとき台所のスペースは限られてきます。小皿などを使わず、お玉を置きたいという料理中の小さな手間を省きたい気持ちからこの発明を思いつきました。

発明の名前どおり、お玉が補助物を必要とせずに自立します。かつ、心配されるお玉からの液だれを防止する構造を持っています。

主に柄内部の構造で重心が移動するので、使用スタイルに合わせてお玉が安定します。また、お玉部分外部の凸凹や内部のくぼみによって、シンク等にお玉を置いた際の液だれを防止することができます。

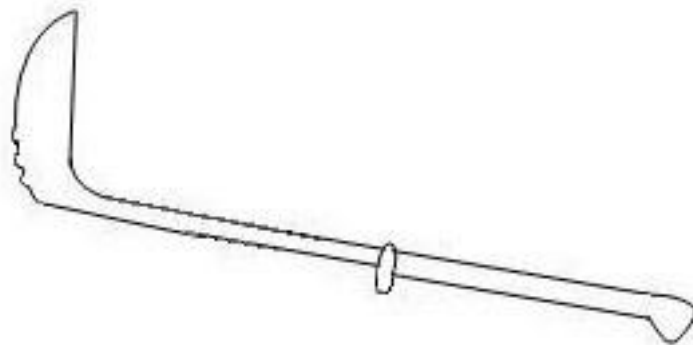


図1 お玉一全体像

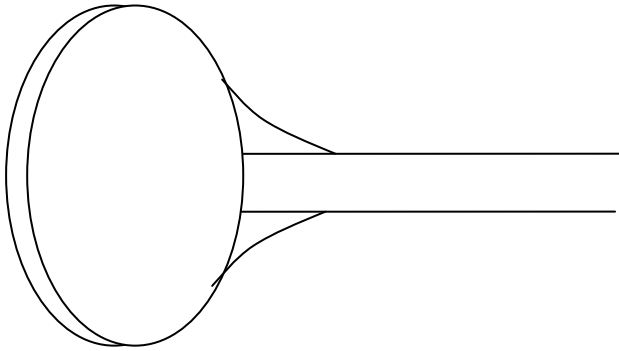


図2 お玉一柄内部構造

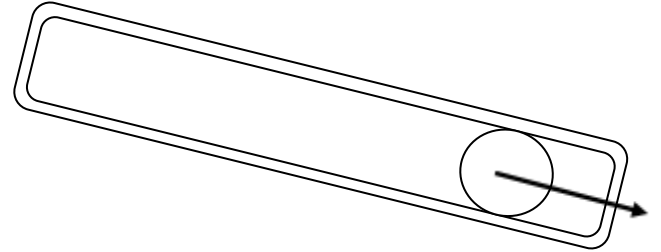


図3 お玉一柄内部構造

#### ◆特許権取得まで

今年1月に「特許出願支援対象」に選ばれ、弁理士への相談料、特許出願料、審査請求料、特許権取得後の特許料(第1から3年分)の支援を受けることになりました。特許申請締め切りが3月であったため、短い期間で書類を作成するのが最も大変でした。

アイデア状態の発明で曖昧なところを、弁理士さんにアドバイスをいただき、書類を作成し、出願した結果、特許権を取得しました。

今後は、幸いにも3Dプリンターに触れる機会があるので、CADを学び、発明品を実際に3Dプリンターで印刷してみたいと思っています。

#### (お問合せ先)

山形大学工学部総務課広報室

TEL : 0238-26-3419

Email: koukoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成26年11月18日  
山形大学

\*詳細は別添の資料をご覧ください。

## 1. 「おしゃべりな畑 人づくり・地域づくり」の開催

文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」として、在来作物の実践講座「おしゃべりな畑 人づくり・地域づくり」を開催します。

この講座では、人財育成の先進地である高知県の取組事例と、ユネスコ創造都市ネットワーク（食文化部門）への登録に向け、活動を行っている鶴岡市の取組事例を学びます。受講料無料。

◆日時：11月22日（土）

◆場所：山形大学農学部3号館3階301講義室（鶴岡キャンパス）

◆申込締切：11月21日（金）まで

## 2. はやぶさ2打ち上げパブリックビューイング in 山形大学工学部

山形大学工学部では、種子島宇宙センターから打ち上げられる小惑星探査機「はやぶさ2」の打ち上げの様子を、JAXAが行うインターネット配信を利用してパブリックビューイングを行います。

「はやぶさ2」には、東北大学・山形大学・東京電機大学・東京理科大学・大阪大学が主なメンバーである大学コンソーシアムで開発された小型探査ロボット（MINERVA-II2）が搭載されており、工学部の妻木勇一教授、峯田貴教授が駆動装置の開発に携わりました。多くの市民・学生の皆様と、「はやぶさ2」の打ち上げを喜びたいと思います。

◆日時：11月30日（日）12:30から14:00

◆会場：山形大学工学部 100周年記念会館1階セミナールーム（米沢キャンパス）

◆内容：工学部長挨拶、妻木教授、峯田教授による解説、打ち上げカウントダウン

◆対象：一般の方、本学学生・教職員（定員：70～80名（先着順））参加無料！

※ これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので、開催がせまっているイベント

### ◎「奥の細道マイスター養成事業公開講座」について

山形大学では平成24年度から一般市民を対象に、奥の細道についてのボランティアガイドを養成する「奥の細道マイスター養成講座」を開講しています。

今年度で3年目となり、初めて、宮城県松島町を会場に上級講座を開催いたします。上級講座を開催するにあたり、講義の一部を公開講座として広く一般に開放します。

◆日時：12月6日（土）13:00～16:00

◆会場：松島文化観光交流館 大ホール（宮城県宮城郡松島町磯崎字浜1-2）

◆募集定員：200名（参加料 無料）※申込みが必要です。

◆内容：第Ⅰ部 講演 第Ⅱ部 パネルディスカッション

文部科学省  
—成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業—  
在来作物の実践講座

おしゃべりな畑

# 人づくり・地域づくり

～高知の場合

鶴岡の場合～

平成26年

# 11月22日(土)

13:00～16:00

**場所** 山形大学農学部  
3号館3階301講義室

**受講料** 無料

**講師**

「土佐まるごとビジネス  
アカデミーの立ち上げについて」

高知県産業振興推進部  
計画推進課長補佐

**土居 秀臣氏**

「農業創造セミナーの取組、  
農業創造セミナー受講生の  
受講後活動について」

高知県農業振興部  
地域農業推進課長補佐

**杉本 久典氏**

「鶴岡食文化創造都市の推進について」

鶴岡市企画部政策企画課  
主幹(兼)食文化推進室長

**東海林 敦氏**

鶴岡食文化創造都市推進協議会  
鶴岡食文化産業創造センター  
統括事業推進員

**深野 修一氏**

地域を元気にするためには、地域に暮らす人々が、それぞれの専門性や立場を活かしながら協力・連携することが大切です。

そのためには、地域にあった人材育成が必要となってきます。

この公開講座では、人材育成の先進地である高知県の取組事例とユネスコ創造都市ネットワーク(食文化部門)への登録に向けて活動を行っている鶴岡市の取組事例を学びます。

**申込み**

山形大学農学部企画広報室

TEL 0235-28-2910 FAX 0235-28-2812  
e-mail : nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

**申込  
締切**

11/21(金)  
まで

# 人づくり・地域づくり

## 高知県に学ぶ

「土佐まるごとビジネスアカデミーの立ち上げについて」

**講師** 高知県産業振興推進部 計画推進課長補佐 **土居 秀臣氏**

### ◎土佐まるごとビジネスアカデミーとは…

高知県が「全国一学びの機会が多い県を目指して」というテーマのもと、県内の産業界や高等教育機関の協力を得て、産業に関わる全ての方が、ビジネスの基礎知識から、応用・実践力に至るまで、受講者のみなさまのニーズやレベルに応じて修得できる研修の総称です。

「農業創造セミナーの取組、  
農業創造セミナー受講生の受講後活動について」

**講師** 高知県農業振興部 地域農業推進課長補佐 **杉本 久典氏**

### ◎農業創造セミナーとは…

「土佐まるごとビジネスアカデミー 応用・実践編」として、農業分野での地域活性化に向けた取り組みを支援するセミナーです。

新たな加工品の開発や改良・農家レストランの立ち上げ・直販所の運営方法の改善・地域特産物の有利販売・交流活動などの地域活性化等に取り組もうとするグループのリーダーの方々などを対象に、自らが企画・提案(創造)できる能力の取得を目指しています。

## 鶴岡市の実践

「鶴岡食文化創造都市の推進について」

**講師** 鶴岡市企画部政策企画課 主幹(兼)食文化推進室長 **東海林 敦氏**

**講師** 鶴岡食文化創造都市推進協議会 鶴岡食文化産業創造センター 統括事業推進員 **深野 修一氏**

### ◎鶴岡食文化創造都市推進協議会とは…

鶴岡市では、多彩な食文化を次代に継承するとともに、食関係産業の振興に取り組むことを目的に、産・学・官・民の連携のもと「鶴岡食文化創造都市推進協議会」を設立し、ユネスコ創造都市ネットワーク(食文化部門)への加盟に向けて活動など、各種の施策を展開しています。

### ◎鶴岡食文化産業創造センターとは…

鶴岡食文化創造都市推進協議会が厚生労働省の実践型地域雇用創造事業に取り組むための実行組織として2012年7月に発足しました。

年度毎に様々な事業を展開し、鶴岡市が目指す食文化創造都市を担う多様な人材を育成することにより、雇用環境の改善、地域産業の振興に資する取り組みを実施するとともに、雇用・産業の創造、食関連産業と異分野産業との連携による新しいビジネスモデルの創造・さらには鶴岡らしい雇用の創出を目的に活動を行っています。

\* おしゃべりな畑とは \*

在来作物の利活用促進を図る地域のリーダーや新たな食農ビジネスの創出につなげるための実践講座。

募集人数 60名

受講料 無料

場所

山形大学農学部

〒997-8555  
山形県鶴岡市若葉町1-23

お問い合わせ

山形大学農学部企画広報室

FAX 0235-28-2812 TEL 0235-28-2910

E-mail nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

申込  
締切

11/21(金)  
まで

## 受講申込書

ふりがな		会社名	
ご氏名		ご所属	
ご連絡先	〒	電話番号	
		E-mail	

※メールの場合はタイトルに「おしゃべりな畑」申込」と記載の上、上記の内容を明記してお送りください。

平成26年11月17日  
山形大学工学部

## 「はやぶさ2」打ち上げパブリックビューイングin山形大学工学部

山形大学工学部では、種子島宇宙センターから打ち上げられる小惑星探査機「はやぶさ2」の打ち上げの様子を、JAXAが行うインターネット配信を利用してパブリックビューイングを行います。

「はやぶさ2」には、東北大学・山形大学・東京電機大学・東京理科大学・大阪大学が主なメンバーである大学コンソーシアムで開発された小型探査ロボット(MINERVA-II2)が搭載されており、山形大学工学部の妻木勇一教授、峯田貴教授が駆動装置の開発に携わりました。

多くの市民・学生の皆様と、「はやぶさ2」の打ち上げを喜びたいと思います。皆様のご参加をお待ちいたしております。

### 1. 打ち上げ関係

打ち上げ予定日時 : 2014年11月30日(日)13時24分48秒

### 2. パブリックビューイング関係

(1)日時 : 2014年11月30日(日)12時30分から14時00分

(2)会場 : 山形大学工学部 100周年記念会館1階セミナールーム  
(別図参照願います。)

(3)内容(予定) :

- ・工学部長挨拶 12時40分～
- ・妻木教授、峯田教授による解説 12時45分～
- ・打ち上げカウントダウン

(4)参加者 : 一般の方、本学学生・教職員

(5)定員 : 70～80名(先着順)

(6)参加費 : 無料

### 3. お問い合わせ先

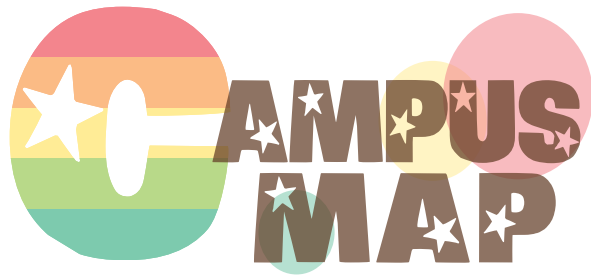
山形大学工学部広報室 齋藤

〒992-8510 山形県米沢市城南4丁目3-16

TEL:0238-26-3419

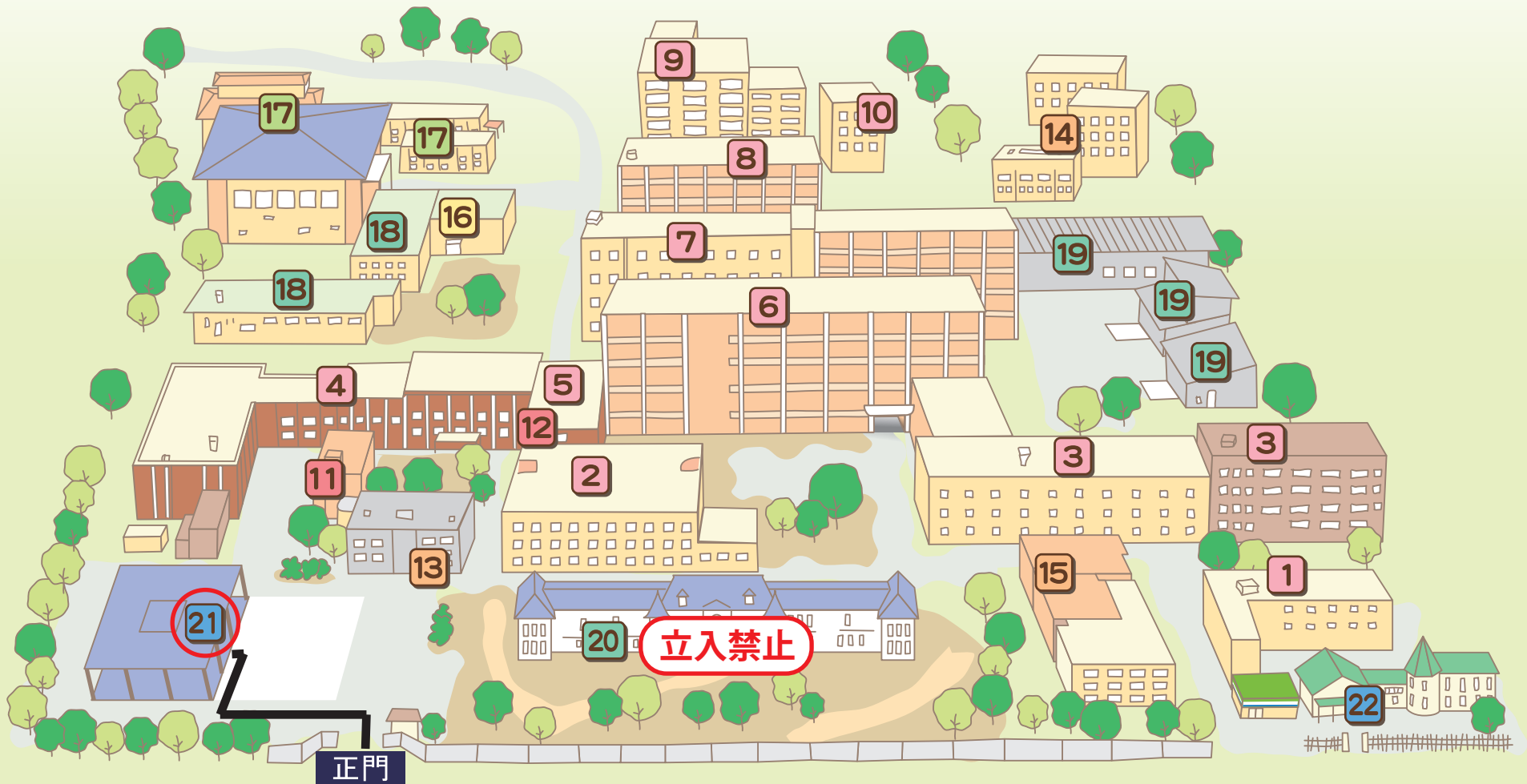
E-mail:koukoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp





# AMPUS MAP

- |       |                              |                 |
|-------|------------------------------|-----------------|
| ① 1号館 | ⑨ 9号館                        | ⑯ 保健管理室         |
| ② 2号館 | ⑩ 10号館(有機エレクトロニクス研究センター)     | ⑰ 体育館・課外活動施設    |
| ③ 3号館 | ⑪ 講義棟                        | ⑱ 学生食堂・工学部会館    |
| ④ 4号館 | ⑫ 学生サポートセンター<br>キャリアサービスセンター | ⑲ ものづくりセンターA~D棟 |
| ⑤ 5号館 | ⑬ 管理棟                        | ⑳ 旧米沢高等工業学校 本館  |
| ⑥ 6号館 | ⑭ 国際事業化研究センター                | ㉑ 工学部百周年記念会館    |
| ⑦ 7号館 | ⑮ 図書館・学術情報基盤センター             | ㉒ ゲストハウスYU      |
| ⑧ 8号館 |                              |                 |



平成26年度

「山形大学 奥の細道マイスター養成事業」及び

「松島町の文化遺産を活かした地域活性化事業」公開講座

# よみがえる東北文化

山形大学では、平成24年度から一般市民を対象に、奥の細道についてのボランティアガイドを養成する「奥の細道マイスター講座」を山形・宮城県内で開講しています。今回、初めて上級講座を開講するにあたり、講義の一部を公開講座として広く一般に開放します。

あわせて、松島町でも、平成25年度から地域に埋もれた文化遺産に光を当て、地域の活性化に役立つよう調査を行っております。その成果の一部を報告するとともに、今後の活動予定について紹介します。

日時 平成26年**12月6日(土)** 13:00～16:00

場所 **松島町文化観光交流館 大ホール**  
(宮城県宮城郡松島町磯崎字浜1-2)

参加無料  
(先着順)  
定員 **200名**

● 受付開始: **11月6日(木) 9時から**

※受付開始日前の申込みは無効となります。お申込み方法は、裏面申込書をご覧ください。

## プログラム

◆ **開会挨拶** (13:00～13:10)

◆ **第一部 講演** (13:10～14:40)

13:10～13:40 「瑞巖寺・雄島の考古学的知見」  
荒木 志伸 (山形大学基盤教育院 准教授)

13:40～14:10 「雄島の板碑」  
新野 一浩 (瑞巖寺 宝物館学芸員)

14:10～14:40 「芭蕉が見た松島と文化遺産を活かした地域活性化事業の取り組みについて」  
森田 義史 (松島町 教育委員会生涯学習班)

◆ **第二部 パネルディスカッション** (14:50～16:00)

テーマ:「よみがえる東北文化」

〈パネリスト〉

- ・新野 一浩 (瑞巖寺 宝物館学芸員)
- ・森田 義史 (松島町 教育委員会生涯学習班)
- ・荒木 志伸 (山形大学基盤教育院 准教授)
- ・佐藤 琴 (山形大学基盤教育院 講師)

〈コーディネーター〉

- ・山本 陽史 (山形大学基盤教育院 教授)

お問い合わせ

山形大学エンrollmentマネジメント部社会連携課  
電話:023-628-4843 FAX:023-628-4491  
E-mail:k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

主催:山形大学



共催:松島町教育委員会

松島町の文化遺産を活かした地域活性化事業実行委員会



〈申込先〉 山形大学EM部社会連携課  
FAX:023-628-4491  
E-mail:k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

## 「奥の細道マイスター養成講座公開講座」及び「松島町の文化遺産を活かした地域活性化事業公開講座」申込書

お申し込みの際は、以下に必要事項をご記入の上ファックスをお送りいただくか、以下の情報を入力してE-mailをお送りください。

なお、平成26年11月6日(木)午前9時前のお申し込みは無効となりますので、ご注意ください。

ふりがな お名前  (生年月日)	( 年 月 日生 )	性別
		男・女
ご住所	〒 -	
連絡先電話番号	ご自宅： - - 携帯電話： - -	
E-mail	@	
山形大学からの連絡方法 希望に○をつけてください	郵送 ・ ご自宅電話 ・ 携帯電話 ・ Eメール	

※今回記載していただいた個人情報は、この催しに関する事務処理のみに使用いたします。

※会場である「松島町文化観光交流館」の駐車場は、数に限りがございますので、公共交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。